

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を掲げ、毎月の全体集会で唱和し確認している。グループホーム独自の理念も掲げ、目につく所に示す事で毎日確認し実践に繋げている。	グループホーム独自の理念「笑顔であいさつ明るいグループホーム」をリビングのホワイトボードに掲示し、利用者一人ひとりに笑顔で挨拶できるように日々取り組んでいる。今年は全職員と相談して、昨年を振り返り新たにテーマを決めて、実践出来る様に意識づけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中に地域の方と顔を合わせ挨拶する事は常にあり、お祭りへの参加や防災訓練に参加する事で交流している。ボランティアも積極的に受け入れている。	散歩中に庭にいる人達と挨拶をしたり、地域の公園で行われる「ふるさと祭り」には、車椅子の利用者も一緒に出掛けて交流をしている。また、傾聴ボランティア、バンド演奏、朗読、紙芝居などボランティアの参加があり地域との交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェを開催している事により、認知症の方々とかかわりを持ち交流する事で理解して頂きながら支援に繋がっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催する事により、参加して頂いている方々からの質問や意見を聞く事でサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2か月に1回実施している。スライドで活動報告をし、意見を出し合っている。インフルエンザの流行期には、管内のマップを参考に面会を全面禁止にするため、毎日面会に来訪される家族からの要望や、感染症対策に関しての意見交換をし、事業所の今後に繋げる取り組みを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括とは、認知症の検討会の開催やオレンジカフェの開催により協力関係を築いている。高齢介護課とも、法令や規定の変更等で分からない事などは相談している。	市の担当者や家族会と認知症の検討会を月に1回実施している。在宅医療介護連絡協議会では、年2~3回、市の担当者・医師・社会福祉協議会・施設長・看護師との連携をとり協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会も活動し、施設内研修も行い職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年1回権利擁護・虐待など身体拘束防止について研修を行っている。身体拘束について理解し、利用者一人ひとりの内容を具体的に把握して実践に繋げている。また、スピーチロックについては、職員間でお互いに注意し合って拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、年に一回は施設内研修を行っている。グループホーム協会においても、勉強会や研修を開催し防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	高齢者虐待防止と絡ませ、施設内研修を年一回実施している。内容を理解し、直接かかわる事がなくても制度を知ることによって活用できるように努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明し、十分理解したうえで締結している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット入口に意見・要望箱を設置している。 家族会を10月と3月に開催して家族との意見交換・情報交換を行い運営に反映している。	家族の意見は、面会時や電話で情報を得ている。家族から、事業所の庭の草取りをしたいとの意見があり、次の家族会で提案し同意を得て、運営に反映させるように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	上席者と個人面談を実施しているので、個人の意見を聞く機会があり、月に一度のミーティング内でも提案や要望は聞き反映させている。	全職員と年1回面談をしており、日常的に意見の言い易い関係になっている。月1回のミーティングの際には、勤務体制や床掃除について話し合わせ、日中は危険なため夜勤帯にする事にした。職員自ら提案して運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年昇給があり、年二回の賞与もある。 5年・10年の長年勤務者への表彰も行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人評価表や、業務改善指導記録を「利用し力量を把握している。 施設内研修は、一つの研修に対し一回目・二回目・追加と三回行い、全職員が参加できるよう配慮している。施設外研修は情報をメールで流し積極的に参加出来る様対応している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県グループホーム協会の研修には参加出来る様努力し交流の場を広げている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今、本人が何を一番困っているのか、ゆっくりと時間をかけ傾聴し安心出来る生活が継続できるよう支援している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に、今家族は何を必要とし、何に困っているのか、丁寧に傾聴し信頼できる関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの場において、様々なニーズの中から必要なサービスを考え、見極めながら対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気の中で、家族の様に寄り添い、食事やお茶は勿論のこと、余暇も一緒に楽しみコミュニケーションを図っている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設行事を知らせ、積極的に参加して頂けるように努めている。 面会時には、必ず近況をお知らせし情報共有して共に支えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで市内を巡り、今まで生活してきた場所を思い出してもらっている。いつでも関係者が来苑できるような環境を作り受け入れている。外出(受診)時には、買い物をしたり家に寄ったりして貴い家族との絆も深めている。	利用者一人ひとりの生活環境を把握し、ドライブがてら自宅の近くまで行き、近所の方と交流をして来る。また、教養子が訪ねてきたり、家族の協力を得ながら、馴染みの美容院に行ったり、受診時には家族と一緒に外食で楽しみながら、継続的な交流ができるように働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内のテーブル席は、都度入居者同士の関わりを考え変えていく必要がある為、常に会話や行動に注意し関係を把握している。 パズルやカラオケは大切なツールである。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型という事業所なので、契約終了後も同じ地域に住んでいる為、いつでも相談を受け支援できる体制を整えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護支援専門員は、計画書作成にあたり家族の意向は都度伺っている。本人の思いや意向も同様に伺っているが、困難な時はミーティング時にカンファレンスを行ったり、日常の会話の中から見出し把握している。	日常生活の中で、食事の好みや趣味など本人の思いや意向を聞き取り組んでいる。家族からの情報も得られるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査票や、入居時に生活歴を記載して頂いているので確認し把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報ツールとして使用しているグループセッションを活用し、一人一人の現状を把握する様努めている。 24時間シートの活用と、ミーティングにおいてもカンファレンスを行い共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の変更や急変等においては、他職種で連携を図り担当者会議を開催し現状に即した計画書を作成している。	利用者には担当職員がおり、施設サービス計画評価表を記入している。介護支援専門員は、それらを基に毎月法人内の看護師・栄養士と一緒に多方面から評価を行い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録はすべてグループセッションに入力し共有している。 介護日誌やヒヤリハットも活用し日々のケアへの気付き、工夫に繋げている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他職種との連携を図る事により、常に柔軟な対応が出来る。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアが入る事により、会話をとおし馴染みの関係が築けるようになってきた。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は、本人と家族に決定してもらい、家族付き添いの元受診している。受診前には、家族に必要な情報を提供し、主治医に説明が必要な場合は、電話連絡や一緒に受診に付き添う事も行っている。	かかりつけ医の受診については、契約時に説明をしている。事業所の協力医の往診2人、通院6人。基本的には、家族の付き添い受診であるため、日頃の様子など情報提供を丁寧に行い、家族との情報の共有を図っている。週1回訪問歯科の対応も行い利用者の多くが受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	特養と併設である為、日中は常に看護師が勤務し、夜間もオンコール体制が整えてあり、介護と看護の連携がスムーズに行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医が近くであり、急変時には看護と連携を迅速にとり指示を仰いでいる。往診対応の入居者様もいる関係もあり、主治医・看護師との関係も良好である。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取りの指針を提示し、重度化した場合や終末期のあり方は主治医と速やかに連携を取り、他職種が一体となりチームとして支援している。	入居時、看取りについての説明を行い、意向を事前に確認している。重度化した場合や終末期の対応については、主治医との連携や併設の看護師など全職員で取り組み、状況の共有が出来ている。これまでも看取りの経験がありチームでの支援体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護マニュアルに従い、急変時の対応を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練・夜間参集訓練を年二回以上実施している。	事業所独自の訓練・法人全体の訓練を年3~4回行っている。消防署の職員から年1回座学の研修を受け、防災の日の訓練では、地域の避難所へ利用者も参加している。地域の川の洪水を想定し2階への避難訓練を実施している。消防団との連携については、運営推進会議においても検討し、具体的な体制の整備に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の尊厳を守り、常に受容的に優しく言葉掛けを行い、笑顔を忘れない対応を心掛けている。	入浴、トイレについては、特にプライバシーが守られるようにしている。入浴では自力で出来る事は、自らしてもらうようにしている。浴室のカーテンは、アコーディオンカーテンも取り付け二重にし、利用者のプライバシーが守られるように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中から、本人の思いや希望をくみとり自己決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々にその日やりたい事を選び決定してもらっている。 皆歌が好きなので、カラオケは職員の声掛けで行う事もあるが入居者様からの希望も多い。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら服を選び着脱できる方は概ね任せているが、困難な方は職員と一緒に季節に合った服装が選べるように支援している。 理髪も、月に二回業者に入って貰い対応できる体制を取っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園で育てた野菜を収穫し食卓へ運び調理する事もある。台所に立ち調理する事ができなくても、出来る人が出来る事をして準備・片付けを行っている。	併設の栄養士が献立を作り、調理は事業所で行っている。回転寿司などの外食、誕生日・ひな祭り・敬老の日・特別な日には、レク委員が中心となって併設の事業所と一緒に中庭でバイキング・餅つき等で楽しんでいる。職員も同じテーブルで食事をし、コミュニケーションの場となっている。利用者も一緒に後片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌を活用し食事量は常に把握できている。 栄養士もいる為、嚥下困難になったり、食事量が減ってしまったりと問題が出た時には、いつでも相談が出来る速やかに対応する事が可能になっている。 水分補給も適宜摂取できるよう対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに合った口腔ケアを行い見守りしている。 義歯の方は、最終の洗浄剤を入れ保管されていることまでの確認を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日をとおしオムツ対応の方は一人で、定時のバット交換を行っている。夜間のみオムツ対応の方は、日中リハビリにして定時のトイレ誘導を行っている。 介護日誌で確認しながら、自力で排泄している方でも声掛けを行い排泄を促している。	介護日誌でバイタル・食事・排泄パターン等を確認して、利用者一人ひとりの習慣や生活リズムに添って自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族持参のお茶やヨーグルト等を提供し、3日排便がない時は、主治医の指示をもらい排便コントロールしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2人介助の入居者様以外は、いつでも本人の希望に沿った入浴ができる様対応している。 体調不良者以外は、週に二回は入浴して頂いている。	利用者の希望を確認しながらも週2回以上は、入浴出来るように支援をしている。入浴を拒否される利用者には、気分を変えて入浴剤などを利用している。シャンプー・ボディーソープなど自前で用意している利用者もいるので、職員と一緒に買いに行く事もあり、個々に添った支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じた休息をとるよう心がけている。夜間は安眠出来る様に、眠剤を服用している方もいるが、眠れない方は無理やり休んで貰わず、お茶を提供したり、TVを見る事もあったりと、寄り添い安心できるように対応し休んでいただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援は、介護マニュアルに沿って対応している。内服説明書がいつでも確認出来るようにユニットに常時置いてある。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	苑周辺の散歩・ドライブ・カラオケ・パズル等一人一人に合った、又は意向を取り入れた楽しみを提供出来るよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿った個別対応の外出が出来ている。職員の配置によっては、併設の特養と合同で行える活動もあり助かっている場面がある。家族の理解と協力を得ながら支援できるよう努めている。	併設の事業所と合同で、ドライブがたら少数人数での買い物など個別の支援を行っている。テラスで日光浴をしたり、お茶を飲んだりその日の天気や一人ひとりの希望に添って支援をしている。気分がすぐれない利用者には、家族の協力を得ながら気分転換してもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理で所持している方が一人いるが、その方以外は事務所で預かり金として管理し使用している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は、手紙を書かれる方が居ないので、電話での対応はいつでも対応出来るよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマスにはクリスマスツリー、お正月は鏡餅を飾り季節に応じた飾りを心掛けている。入居者様が書いた習字や塗り絵も貼り、家族からの飾り物やお花等の提供もあり、居心地よく過ごして頂けるように努めている。	玄関を入ると観葉植物の花が咲き和む雰囲気である。リビング兼食堂は、厨房からの昼食を用意している良い匂いがしてきて家庭的である。トイレは、片麻痺対応型がそれぞれ1か所づつあり使用し易くなっている。利用者は、食後日当たりの良い空間でジグソーパズルやテレビを鑑賞しながら居心地良く過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	三人掛けのソファに気の合った入居者様同士TVを見たり話をしたりしている。パズルをしている方が居れば、興味を持った方が自然に側に寄り楽しい時間を過ごしている。一人で広告を利用しゴミ箱を作っている方もいれば、職員と会話を楽しんでいる方もいたり、思い思いに過ごせる場所を提供している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで慣れ親しみ使用してきた物は居室へ配置して頂き、使い慣れた箸や茶碗もそのまま使用している。本人が家庭での生活の延長であるように居心地よく生活出来るよう支援している。	居室には、事業所で用意した絵画・木製のベッド・加湿器・チェスト・換気扇・温度計がある。利用者は、個々に馴染みの物やテレビ等を用意して居心地良くなっている。夫婦で過ごせる部屋があり、使用している利用者もいるが、現在はそれぞれの部屋で生活して、気分の良い時には、2人で一緒に過ごせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人勤務の時間帯は、止む終えずユニットの入り口をロックする事があるが、特養と併設されている事もあり、合同レクも多く行っている為、顔なじみの職員や入居者様がいるので建物内は安心して生活が送れるよう支援している。			